

第35回ブラッシュアップ研修会速報

	日時	場所	テーマ
第35回	2019年9月14日 (土) 研修会 14:30~18:00 懇親 18:00~20:00	かながわ労働プラザ 第6,7会議室 JR石川町北口下車 徒歩3分	<p>1. 卒業生講演：株式会社ヒューイズガレージ 矢田 宏樹 氏 2011年 横浜国立大学工学部第二部機械工学科 卒業 演題：整備性から見たオートバイ</p> <p>2. 学生フォーミュラー活動報告：YNFP-19 ・2019年度チームの活動報告 ・2020年度車両設計方針のご報告とご相談</p> <p>3. 先生講演：横浜国立大学 テニユアトラック准教授 太田 裕貴 先生 2011年 慶應義塾大学 理工学研究科 総合デザイン工学専攻 博士課程 修了 演題：ソフトマテリアルによる柔軟なインターフェースを用いた スマートデバイスの開発</p>

研修会講演概要

研修会参加者：16名

懇親会参加者：16名

卒業生	学生	先生
整備性から見たオートバイ	学生フォーミュラー活動報告	ソフトマテリアルによる柔軟なインターフェースを用いたスマートデバイスの開発
タイトルから内容が出席者に合わせて少々変更された。実践技術者としての独特の歩みを生い立ちから現在の会社の社長としての生き様が紹介された。中でも好きなバイクでのパリダカールラリー出場での苦勞、2007年オーストラリアラリーでの優勝経験。バイクの修理を実践する中で「ものづくり」で大切なことは、「安心」なものを提供することこれは、人間性であるとの提案がなされた。	2019年度チームの活動報告で総合2位を獲得をした自己分析が的確に説明された。静的審査でのコストでの順位の低さが今回の敗因。車は、テスト走行を例年になく数多くこなして完成度があがっている。困り事は、資金不足。メンバーの途中リタイヤが今年ゼロ。 2020年度車両設計方針は、静的審査の部分を重点的に改良し、動的な性能は原状をブラッシュアップ。	ソフトマテリアルによる柔軟なインターフェースを用いたスマートデバイスの開発として機械系のものづくり技術をベースにスケール効果を用いたセンサーを開発。特に環境計測として重要な温度、湿度、光の3つの物理量を正確に計測できる技術を作り上げた。ゲルアクチュエータとしてユニークな螺旋状のチューブを用いて制御する手法を開発など積極的な研究を行っている。英語の読み書きのレベルを日本人はあげる必要がある。
株式会社ヒューイズガレージ 代表取締役 矢田宏樹 氏	YNFP-19 三年 福田祥多郎さん、田中真由さん 二年 持田零偉さん	横浜国立大学 テニユアトラック 准教授 太田裕貴 先生

次回 第36回「ブラッシュアップ研修会」を2020年1月25日に開催予定です。

研修会と懇親会

